



オリジナルバージョン

セッション9 自己評価クイズ

選択問題（合計 10 問）を使用して、セッションで学んだ「つながりを教える仕事の推進」について確認します。

1. 成人してから豊かな人生を送る孤児の多くが、
 - A. 孤児でいつも一人ぼっちにされていた
 - B. 特定の養育者との絆を持ち、社会的アイデンティティを持つグループと生活していた
 - C. 常に物事を覚えるように求められていた
 - D. 多くの養育者と深いつながりを持つことができた

2. 社会的発達と愛着を促すものは何か？
 - A. 乳幼児にとって、1日にまたは週に何度もある別れ
 - B. 人数が多い（10人以上）子どもグループ
 - C. 1～2人の養育者との密接なつながり
 - D. さまざまな養育者と継続的に心を通わせること

3. 子どもの発達に効果的な子どもグループにするには、
 - A. 小人数制（8人以下）にする
 - B. 日中は絶対離れ離れにならない
 - C. 日中に他のグループの子どもたちと会わない
 - D. 大部屋の寝室を共有する

4. 育児放棄された子どもたちと接する際に重要なのは、
 - A. あくまでも仕事として養育して、個人的には関与しないことである
 - B. 子どもたちを養育者にあまりなつかせないことである
 - C. 子どもグループを交替して、個人的な過度の関与は避けることである
 - D. 子どもに振る舞わされることなく、子どもを思いやることである

5. 各子どもグループにおいて、
 - A. 専任の養育者が子どもについての重要な意思決定すべてを行う責任を持つべきである
 - B. 専任の養育者がいない場合は、他のスタッフが子どものために意思決定をする権利があることを子どもに伝え、専任の養育者に何らの連絡もせず、意思決定をする
 - C. 専任の養育者が休職または転職する際には、子どもたちには何も言わずに去るほうが、子どもが辛い別れをしなくて済む
 - D. 養育者の一人が10人以下の子どもグループの「専任の養育者」になる。



6. 学校へ上がる前の子どもたちと学校へ上がった子どもたちにとって重要なのは、
- A. 決して一人にさせないことである
 - B. 一人になれる、ある程度の時間があることである
 - C. 反抗的な振る舞いをする場合には、隔離することである
 - D. 無作為に一人にして、長い休憩をすることである
7. 以下の記述のうち、アイデンティティの発達を支えることに重要ではないのはどれか？
- A. 子どもたち一人ひとりに、子ども部屋の一角、椅子、ベッド、ものなど、その子だけの空間が必要である
 - B. 子どもたちにはたくさんのおもちゃを持たせる
 - C. 日記を書かせる
 - D. 鏡で遊ぶ
8. 安全基地「家族」モデルとは、
- A. 施設の作業計画やスケジュールには影響しない
 - B. 14人以上の子どもたちから成るグループと接することを意味する
 - C. 男性1人と女性1人の存在を必要とする
 - D. 子どもたちが安心して成長し、学べるように、手助けするものである
9. 以下の記述のうち、「家族モデル」を実現するために不適切なのはどれか？
- A. スタッフをグループ分けして、ワークチームを作ることが有用である
 - B. 子どもグループを最大8人で構成する
 - C. 「家族グループ」内のメンバー変更を頻繁にすることが有用な場合がある
 - D. さまざまなアクティビティをするために子どもグループを2つに分けて、1日の特定の時間を別々に過ごしてもよい
10. 大人の養育者との安定した長期的なつながりが欠如していると、子どもたちは、
- A. 不適切な愛着行動（回避型、両極型、または無秩序型）を起こす
 - B. 甘いものを避ける
 - C. 異常な成長をみせる
 - D. 不適切な愛着行動（両極型、失読症）を起こす